

## Ⅷ 各特定課題の取組を推進するための協働・普及啓発

### <主要施策の取組状況>

#### 1 丹沢大山自然再生委員会を通じた連携

##### ① 自然再生プロジェクトの推進

- ・ 平成 21 年度に県とサントリーホールディングス株式会社が締結した協定に基づき、丹沢大山自然再生委員会（以下、「再生委員会」）の承認を得て、丹沢県有林で実施しているサントリー「天然水の森 丹沢」自然再生プロジェクトの活動に対して、自然環境保全センターが技術・情報提供などの協力を行った。
- ・ 自然再生プロジェクトでは、「溪畔林整備の手引き(平成 29 年 3 月)」を活用した溪畔林整備〔面積皆伐 (0.05ha)、植生保護柵 (111m)、広葉樹の植栽 (150 本)、定性間伐 (1.24ha)〕を施工した。
- ・ 平成 29 年度以降に自然再生プロジェクトで設置した植生保護柵内において、植生モニタリングを実施した結果、高木性樹種であるイヌシデ、ケヤキ等の実生の生育が確認され、草本層の植被率や地上部現存量が示す林床植物の量が増加する傾向がみられた。また、自動撮影カメラを用いたノウサギの生息状況調査〔17 地点〕を実施した結果、「天然水の森 丹沢」では低標高域から中標高域にかけてノウサギの生息密度が低く、一方、高標高域ではノウサギの生息密度は高いことが示唆された。

##### ② **重点** 団体等との協働による自然再生の取組の推進

- ・ 丹沢大山の自然再生の取組の普及啓発を図るため、自然環境保全センターは自然再生委員会の事務局として、「第 63 回秦野丹沢まつり」や「地球環境イベント・かながわエコ 10 フェスタ 2019」に参加するとともに、再生委員会と各団体との共催による「森林探訪」などの活動を支援した。また、再生委員会と NPO 法人丹沢自然保護協会の共催で毎年開催されている「丹沢フォーラム」に、県職員を講師として派遣し、県が実施している事業について説明するなど、自然再生の取組について普及啓発を図った。
- ・ 再生委員会事業計画・評価専門部会兼調査専門部会として、丹沢大山自然再生計画の策定当初から植生回復対策やシカ管理捕獲を行っている高標高ブナ林と、平成 29 年度から開始した高標高人工林の土壌保全対策の令和元年度の現場を視察し、今後の方向性について意見交換した（ニホンジカ保護管理検討委員会との共催）。また、再生委員会主催の「丹沢大山自然再生活動報告会」では、基調講演やシンポジウム、ポスターセッションを通して県の自然再生の取組状況について報告した。

○主な普及啓発活動

活動名称	開催日・場所	内容	来場者数
コリドー(緑の回廊) (植樹)	春:H31. 4. 13 秋:台風19号により中止 菩提峠 (秦野市)	荒廃地や人為的影響による裸地に広葉樹等を植栽し、丹沢の環境保全を推進した。	春:141名 秋:-
第63回秦野丹沢まつり	H31. 4. 21 県立秦野戸川公園(秦野市)	会員団体5団体と連携して一般県民に丹沢大山の自然再生をPRした。	300名 (推計)
丹沢フォーラム	春:R1. 5. 18 秋:R1. 11. 16 三ノ塔まか (秦野市)	県が実施する自然再生事業について、県や森林組合職員より説明を行い、丹沢の森と水の繋がり、人々の暮らしとの繋がりについて理解を深めた。	春:45名 秋:47名
地球環境イベントかながわエコ10フェスタ2019	R1. 5. 25~26 県庁前・日本大通り(横浜市)	会員団体3団体と連携して一般県民に丹沢大山の自然再生をPRした。	450名 (推計)
森林探訪 「大山阿夫利神社・下社」～初秋の静かな裏参道から大山阿夫利神社下社を歩こう～	R1. 9. 28 糞毛越えほか (秦野市)	大山のすその森林を探訪しながら、森林の機能や、そこに生息する生き物の生態や人の関わりについて検討するとともに、森林の楽しみ方について普及啓発した。	28名
ワールドフェスタ・ヨコハマ2019	R1. 10. 12~13 山下公園(横浜市)	台風19号の接収に伴い中止	-
丹沢大山自然再生活動報告会	H29. 10. 15 日本大学生物資源科学部(藤沢市)	会員団体の自然再生の活動を報告し、意見交換を行った。	320名

③ **FS** 学校教育との連携等による自然再生の担い手づくり

- ・ 自然環境保全センターは、環境学習活動を通じた自然再生の担い手づくりを推進するため、NPO 法人丹沢自然保護協会主催の「森の学校」や、NPO 法人かながわ森林インストラクターの会主催の「森林環境教育」に、再生委員会を通じて協力した。自然体験や調査活動等により、小中学生を対象に自然体験や調査等を通して自然の仕組みについて知ってもらうとともに、自然再生の取組について普及啓発を図った。
- ・ また、県立高校体育連盟と再生委員会が連携して開催した「高校生と取り組むレンジャー(巡視)体験」において、県内の登山専門部に所属する高校生を対象に、県職員が自然公園や自然再生の取組に関する説明やクイズを行った。これにより、自然再生と登山に関する普及啓発を図り、自然公園の適正利用について理解を促進した。

○環境学習の推進活動

活動名称	開催日・場所	内容	来場者数
森の学校	夏: R1. 8. 13~15 冬: R1. 12. 27~29 春: 新型コロナウイルスにより中止 (東丹沢)	子ども達が自然の中で生活し、野生動物の生態や役割を学ぶことで自然の仕組みを知り、また動物や植物の生活史を通して、人間と丹沢の自然環境の関わりを学んだ。	夏: 48名 冬: 25名 春: -

森林環境教育	R2.1.21 やどりき水源林(松田町)	将来の丹沢の自然環境の保全・再生を担う人材を育成するため、県内の小学生を対象に現地見学を実施し、丹沢の自然に親しんでもらいながら、自然環境に対する理解を深めた。	6名
高校生と取り組むレンジャー(巡視)体験	R2.1.25～26 (26日は雨天により中止) 県立秦野戸川公園パークセンター(秦野市)	1日目は、丹沢大山の自然再生や登山道が抱えるオーバーユース等の課題・取組についての普及啓発を行った。2日目に実施予定であったレンジャー(巡視)活動体験は雨天のため中止となった。	98名

## 2 県民協働の枠組みを通じた連携

### ① **重点** 丹沢大山クリーンピア 21※1、丹沢の緑を育む集い※2、丹沢大山ボランティアネットワーク等による連携・協力

- ・ VIII-2-①(丹沢大山ボランティアネットワーク)に記載のほか、丹沢大山国定公園を中心とする山岳地域及び周辺地域の環境保全を図るとともに、「ゴミの持ち帰り運動」を推進するため、丹沢大山クリーンピア 21※1によるクリーンキャンペーン [参加団体：84 団体、参加者：1,679 人、収集量：1,842kg] や構成員であるボランティア会員(団体)による清掃活動 [参加団体：12 団体、参加者：1,260 人、収集量：931kg] を支援した。
- ・ 丹沢の緑を育む集いにより、植樹(菩提峠周辺) [参加者数：141 人] を行った。

- ※1 丹沢大山クリーンピア21 丹沢大山地域周辺の良好な自然環境の保全に寄与するため、ゴミの持ち帰り運動を推進することを目的として、企業・各種団体及び行政機関等の協力のもと設立された。
- 2 丹沢の緑を育む集い 丹沢大山地域で植樹事業やウラジロモミ等をシカの影響から守るための防護ネット設置事業などをボランティアとの協働で行っている各種団体及び行政機関で構成されている。

## 3 協働・普及啓発の拠点の活用

### ① 神奈川県自然環境保全センターの自然再生活動への活用促進

- ・ クラフト教室、自然発見クラブ [実施数：5 回、参加者 94 人]、他機関からの依頼による自然保護や緑化等の研修会等 [実施数：4 回、参加者 58 人] を通して、自然再生活動について考え、実践する機会を提供した。
- ・ フィールドスタッフ(自然保護と自然体験の指導者)として活躍する人材を育てる養成講座 [実施数：9 回、参加者 191 人] を行う一方で、身につけた知識や技術を発揮する活動実践の場として、自然環境保全センターの展示室・野外施設を活用した県民向けの観察会 [実施数：88 回、参加者：1,623 人] を開催した。
- ・ 本館2階で自然再生に関するパネル等を展示する「企画展」を開催し、丹沢地域の自然や歴史、文化等に関する普及啓発を図った。 [自然環境保全センター利用者数：18,676 人]

○本館 2 階で開催した企画展

開催期間	テーマ
H31. 3. 5～4. 25	平成30年度緑化運動・育樹運動ポスター原画・標語コンクール受賞作品展 絵画と標語で表現した子ども達作品
R1. 5. 1～7. 28	みんなの知らないツバメの世界 アマツバメとツバメの写真展 ツバメ、アマツバメの写真パネル展示
R1. 8. 3～10. 14	神奈川県にすむ野生動物たち～傷病鳥獣救護40年の記録から～ 傷病鳥獣救護40年の記録から見えてきた救護要因等のパネル展示
R1. 10. 16～12. 26	ニホンジカのこともっと知ってください 県におけるニホンジカ保護管理の取組のパネル展示
R2. 1. 5～3. 26	令和元年度緑化運動・育樹運動ポスター原画・標語コンクール受賞作品展 絵画と標語で表現した子ども達作品

- ・ 子供にも分かり易く伝わるようイラストを用いて、丹沢大山自然再生の取組を時系列に並べた「丹沢再生絵巻」を本館 1 階に展示し、10 月から本公開した。また、この展示について解説したリーフレットを作成し、自然環境保全センターホームページへの掲載や展示室に配架するなど、多くの県民に丹沢大山自然再生の歴史や取組、課題に関する普及啓発を図った。
- ・ 「丹沢再生絵巻」の横に設置したデジタルサイネージモニター用に「丹沢再生クイズ」を作成し、公開に向けて準備を進めた。
- ・ 本館図書室では、丹沢資料保存会から寄贈された図書やジオラマを活用し、定期的特集を組むなど、丹沢大山の取組や歴史をパネル等で紹介した。

○丹沢資料保存会から寄贈された図書を活用した特集棚

開催期間	テーマ
H31. 1. 15～R1. 5. 31	松浦武四郎 生誕200年
R1. 5. 31～10. 31	丹沢山麓の歴史をたどる
R1. 11. 1～	山岳書を読もう！～紀行・ルポ編～

② 神奈川県立ビクターセンターの自然再生活動への活用（Ⅷ-2-②）

- ・ 丹沢地域の自然保護関連機関が連携して「自然保護情報交換会」を開催し、情報共有を図った。
- ・ 自然環境保全センターで実施した企画展の一部を、ビクターセンターで巡回展示 [実施数：2回] した。

○ビクターセンターと連携して開催した巡回展示

場所	開催期間	内容
秦野ビクターセンター (秦野市堀山下)	R1. 5. 18～7. 7	丹沢のブナ林再生を目指して ブナ林の再生に向けた県の取組
	R1. 12. 7～R2. 2. 16	植物誌をつくろう！～『神奈川県植物誌2018』のできるまでとこれから～ 生命の星・地球博物館との共催展示



- ・ 丹沢で活動する様々な市民団体、NPO 団体の活動拠点として、各団体が収集した情報を展示などにより来館者へ提供した。

#### 4 自然環境・自然再生情報の蓄積と発信・活用

##### ① 自然再生情報の提供と丹沢大山自然環境情報ステーション(e-Tanzawa)の活用

- ・ 丹沢大山自然環境情報ステーション (e-Tanzawa) を活用し、自然再生プロジェクトの活動レポート、展示物、企画展及び巡回展示の案内を掲載するなど、自然再生の取組状況について最新の情報を提供するとともに、自然再生に関する普及啓発を促進した。
- ・ 情報発信を強化するため、新たな情報発信ツールとして自然環境保全センター独自の Twitter アカウントを取得し、令和2年度からの運用に向けて準備した。

○丹沢再生絵巻

(自然環境保全センター) [厚木市]



○高校生と取り組むレンジャー(巡視)体験

[秦野市]



○丹沢の緑を育む集い 植樹の様子 [秦野市]



○サントリー「天然水の森 丹沢」自然再生プロジェクト整備後の様子 [清川村]



○事業実施位置図（位置情報のある事業のみ掲載）

